

第23期 第3回 八尾市図書館協議会 会議概要

日 時 令和5年7月27日(木)

14時00分～15時45分

場 所 八尾市立青少年センター集会室

出席者(敬称略)

松井 純子	(大阪芸術大学教授)
高橋 敏博	(八尾市校長会)
二宮 久子	(八尾市社会教育委員会議)
木村 貴志	(八尾市PTA協議会)
稲垣 房子	(元奈良大学教授)
嶋田 学	(京都橘大学教授)
梶原 修	(大阪府立中央図書館)
戸倉 信昭	(大阪市立中央図書館)
高田 正史郎	(八尾市地区福祉委員長連絡協議会)
鈴木 縁	(公募市民委員)

欠席者(敬称略)

江岡 信行	(八尾市青少年育成連絡協議会)
-------	-----------------

事務局

原田 奈緒美	(教育委員会事務局副教育長)
辻内 文子	(教育委員会事務局次長兼生涯学習課長)
奥田 真美	(八尾図書館長)
浅田 耕司	(山本図書館長)
吉岡 雅之	(志紀図書館長)
上原 康男	(生涯学習課長補佐兼八尾図書館資料係長)
吉位 計太	(生涯学習課長補佐兼八尾図書館資料係長)
仲谷 智子	(八尾図書館利用サービス係長)
山口 みどり	(八尾図書館司書)
中村 友美	(山本図書館司書)
喜多 由美子	(志紀図書館司書)
川元 翔	(龍華図書館長：指定管理者)
笠松 幸	(龍華図書館業務責任者：指定管理者)

1 委員の変更

八尾市図書館協議会委員の学識経験者として、島上智司氏に代わり、戸倉信昭氏を新たに委嘱したことを報告する。

2 副教育長挨拶

3 前回会議の会議概要について

事務局：前回会議の会議概要の内容で、委員から確認依頼のあった件について報告する。

担当課に確認したところ、学校司書の配置にかかる令和5年度の予算要求を行ったが、結果として予算措置されなかったということであった。

委員：今後の検討の余地はあるのか

事務局：担当課からは今後も引き続き働きかけを行っていくと伺っている。

4 報告

(1) 小中学校での八尾電子図書館の利活用促進について

委員：小中学校で電子図書館をどのように活用していくのかについて教えていただきたい。

事務局：活用の方法としては、各学校で行っているような朝読での活用や、調べ学習での活用を想定している。また、学校以外でも、夏休みのような長期休暇の間に、自宅等でWi-Fi環境があれば利用できる環境も整っているため、そういったところでの活用も想定している。

委員：電子書籍やインターネット上の情報資源を扱うということについて、法政大学の坂本旬教授は、従来の情報モラル教育では限界があり、メディア情報リテラシー教育の重要性を強調されている。メディア情報リテラシー教育はフェイクニュースを見極めるための能力育成に対して本質的な役割を果たすとされており、公共図書館からそういった観点での、いろいろなアプローチも検討頂きたい。

委員：イメージとしては、すでに導入されている電子図書館を市全体として拡大することか。

事務局：すでに導入されている電子図書館の利用者IDを小・中学校の児童・生徒に付与することにより、電子図書館の利用が可能となるので、利用できる人数が増加することになる。

委員：現場の学校司書や司書教諭の方へのサポートについて、どのような対応を考えているのか。

事務局：今回の事業実施にあたり、9月に学校図書館サポーター向けにも研修会を行う予定である。本研修会を通じて、八尾電子図書館のことを知ってもらい、活用方法等を伝えていきたいと考える。今回、同時にアクセスすることができるコンテンツも約300点導入予定であり、こういったコンテンツの紹介など、情報提供しながら進めていきたい。

委員：公共図書館として、電子図書館をどういう形で活用していくかはなかなか難しい点もあると思うが、学校教育と社会教育の連携を、運営のあり方も含めてど

う考えていくのか伺いたい。

事務局：電子図書館をどのように位置づけるかについて、小中学校での八尾電子図書館の利活用の状況を踏まえ、学校教育部門と連携を取りつつ、八尾市全体の図書館サービスのあり方の中で検討していきたいと考える。

委員：電子図書館が11月からの運用ということで校長会でも説明があったが、学校現場でどういうふうにするのが一番効果的であるかについては、現場の先生方と一緒に考えていきたい。

委員：児童生徒に対してIDを付与する対象は、市立小中学校の児童・生徒ということだが、市内在住の私立の小学校、中学校に通っている児童・生徒に対して、電子図書館のIDは付与されないということか。

事務局：市内在住で私立の小学校、中学校に通っている児童・生徒については、八尾市立図書館の利用者登録をしていただければ、八尾電子図書館の利用が可能となる。

5 議題

(1) 図書館の事業報告について

①令和4年度 図書館事業の報告について

委員：5点ほど伺いたい。まず、1点目として、サービス状況一覧のところでは指標になるようなもの、例えば貸出密度とか実質登録率について、実利用者・実利用率と呼んでも良いものだと思うが、何か目標値があって設計したのか伺いたい。

2点目として、分類別の蔵書の冊数と比率のところでは、一般書の文学と日本の小説で43.6%という比率になっているが、相対的に他の比率がどうなのか、例えば出版統計で出ているこういった種別の出版の比率と、実際提供できている図書館の蔵書の比率とのバランスをどのように考えているか。

3点目として、研修について、日本図書館協会の中堅職員ステップアップ研修のこの年度の参加がないのは何故か。

4点目として、令和5年度の当初予算の図書館費合計が一般会計の歳出の中で0.38%であるが、これは類似した人口都市の中で、高いのか低いのか、比較して教えてほしい。この数年でこの比率が上がってきているのか、下がってきているのかも併せて伺いたい。

最後に、5点目として、八尾市立図書館の機構図だが、八尾図書館長の下に課長補佐兼係長で資料系の担当、それから今東光資料館担当で課長補佐兼係長がいるが、これは3つの枠に1人ずついるという理解でよいのか。

事務局：1点目については、コロナでここ3年ほど苦しい状況が続いているが、コロナ前の平成30年度を目標に戻していくというところである。

2点目については、リクエスト状況や来館者の求めるものを加味してこのような率になっているという認識である。

3点目については、中堅職員ステップアップ研修について申込みはしたが、定員を上回る参加申込があったため、本市からは参加できなかったということである。

ある。

4点目については、一般財源に占める図書館費予算の割合が0.38%ということだが、他市との比較、大阪府下平均に比べると、資料費では少し低いという認識である。

5点目については、機構図では八尾図書館長が1名、課長補佐兼係長資料係担当が1名、課長補佐兼今東光資料館担当が1名という体制である。

委員：気候変動や平和の問題、食糧の問題などは誰もが関心を持っていると思うが、そういうことを問題提起していくことも図書館の仕事だと理解している。ネットニュース以外に本でも、図書館職員が選んだしっかりした資料で理解していただくことがとても大事なので、そのところもぜひお願いしたい。

委員：年間受入点数について、昨年度よりリクエスト購入が非常に増えているがどうということか。また除籍についてもかなり減っているが、何かこの数字の変動について理由があれば伺いたい。

事務局：順番が逆になるが、除籍の方はたまたまこの年度は大がかりな書庫の整理ができなかったということで、特に何か理由があるわけではない。リクエストに関しては、これまで以上に厳密に数字をとってきたというところである。

②龍華図書館の事業実績及び計画

委員：龍華図書館では、選書会議を週2回開催しているということだが、八尾市立図書館の状況はどうか。スタッフ研修について、延べ参加人数が143人だが、龍華図書館のスタッフ16名なので非常に努力していると思う。先ほどの報告では、直営の研修参加人数が84人で全職員が80人ということで比率からすると、職員の研修の頻度というものに少し差異を感じるが何か理由があるのか。運営計画の方で、八尾市立図書館としてのめざす図書館像に合わせて、龍華図書館も同じように書いているのか。もしくは個別の目標であるなら、基本計画のようなものがあるのかを伺いたい。雇用形態についてだが、公共サービス基本法における安定的な雇用条件等について、契約社員という形で継続的に仕事をしていける状況であるのか。

事務局：選書会議については、龍華図書館を含め、八尾市立図書館として週2回行っている。成人と児童のそれぞれの担当者が4館集まって、ウェブの形で行っている。研修については、龍華図書館の事業報告書には、図書館サービスに直結するというよりも指定管理者が八尾市のことをより知るための研修や、指定管理者が独自で行っている研修も含めて記載しているので、図書館事業の報告書との整合性はとれている。運営計画のところは、八尾市の各種計画の理解とともに、公立図書館が教育基本法、社会教育法、図書館法などの関連法令などに基づいた社会教育施設であることも理解しつつ、提案していただいているので全く一緒というわけでもないが、個別の方針ながらも市の計画と齟齬があるということではない。

事務局：雇用形態について、契約社員という形での契約だが、法律に基づき勤務年数

によって無期雇用になり、雇用が継続できる形である。

委員：八尾市立図書館全体としては、この龍華図書館が打ち立てているような図書館像というものがあるのか。図書館の基本計画とかめざす図書館像というものについては、どのようになっているか。

事務局：八尾市の教育振興基本計画、子ども読書活動推進計画を踏まえて、年度ごとの事業計画をたてている。めざす姿、図書館の基本的運営方針だが、市民が読書したいと感じたり、知る・学ぶ気持ちを大切にする図書館、市民の生活に役立つ情報拠点としての図書館、あらゆる市民が利用しやすい図書館、市民に開かれた図書館というのをめざす姿としており、それらを踏まえて運営している。

委員：八尾市教育振興基本計画の中の図書館に関する記述ということでよろしいか。

事務局：今のめざす姿は図書館の事業計画の中の基本的運営方針の中である。

委員：電子図書館の選書は、具体的にどのようにしているのか。小中学校の児童・生徒にIDを配布して、なおかつ多人数でアクセスできる電子書籍を導入するとなると、費用も新しく発生するのではないか。指定管理者の独自事業ということで運営しているということだが、その辺りも踏まえて教えていただきたい。

事務局：電子図書館のコンテンツに係る選書については、昨年度までは龍華図書館の指定管理の自主事業という位置付けだったが、今年度から提案事業ということで、仕様書にも組み込まれていることから、市の職員も関わりながら選書を行っている。電子図書館の運営に係る経費について、仕様書の範囲に含まれるため、同時アクセスが可能なコンテンツのパッケージの費用も含め、龍華図書館の管理運営委託料の中で対応している。

委員：館別の資料費の中に、電子図書館の経費は含まれているのか。

事務局：電子図書館の経費は、龍華図書館の管理運営委託料の中に含まれているので、館別の資料費には含まれていない。

委員：指定管理者として示されている予算一覧の中に、資料費は市の予算で購入するから含まれていないが、電子図書館のコンテンツ費用は含まれているという理解でよいのか。

事務局：資料費については委員のご発言どおりであり、電子図書館のコンテンツについては予算一覧の中の、使用・賃借費の中に電子コンテンツの費用が含まれている。

委員：事業報告書の収支決算報告書についてだが、令和4年度の収入に対して支出が超過している状況だが、説明をお願いしたい。

事務局：令和4年度は、需用費が当初の見込みより上回ったことからマイナス38,467円となっているが、その金額は、指定管理者に負担していただいた。

委員：令和4年度の中では電子図書館に関する使用料は、費目としてはリース料の名目で上がっているものが、その電子図書館に該当すると思ったらよいか。

事務局：令和4年度までは、電子図書館の運営は指定管理者の自主事業という位置付けになるので、指定管理料は充当されておらず、決算書上、上がってこない。

委員：4館の選書会議で成人と児童に分けて選書するということが、人生100年時代ということ掲げている中、児童は小学生、中学生でいいと思うが、成人をもっと細かく10年ごとに分けるなど、もう少し細分化することも検討いただけたらと思う。

③数字で見る八尾市の図書館

委員：高齢者の方にもたくさん利用してもらおうというところから、高齢者に向けてのサービス等を数字で見たいような資料も作っていただきたい。

委員：大阪府内の自治体中で、八尾は受入点数に占める児童書の割合が36番目ということで、下から数えた方が早いぐらいの割合だが、他市と比較した場合にこれについてどのような検討をされているのか。

事務局：令和3年度においては、若干少ない割合だと認識している。ただ、その前年度を見ると、23番目で30.9%という児童書の割合になっており、リクエストや読みたい本との兼ね合いで、各年度でどうしても割合の変化は出てきてしまう。現在、蔵書だけを見ると、児童書などの蔵書の数においては府内5位、類似市においては1位となっている。いろいろなバランスを見ながら、適切なその時代にあった選書をして、蔵書していきたいと考えている。

委員：事業報告の蔵書について、以前の毎日新聞のアンケート調査で、図書館を利用しない理由が図書館に借りたい本がないから、というのがランクインしている。人口の多いところで実利用率を高くするのは非常に難しいが、できるだけ多くの市民の方に使ってもらうためには、資料の主題対応性が非常に重要だと考える。八尾市の産業種別の人口比率に鑑みて、産業、自然科学、ものづくりなどの分野が少ないので、潜在的な利用者の方にこたえる蔵書構成ということもご一考いただきたい。児童書については、絵本と日本小説、外国小説、この三つを合わせて62%なのに比べると、探究学習、調べ学習などの他の分野の比率が低い印象があることを追加したい。

事務局：実利用者数を伸ばしたいというのは常日頃から考えていることである。先程のアンケート調査の結果で借りたい本がないからという理由は、そのような理由もあるのかと思った次第である。今後の選書会議でその辺りの課題も提起しながら、皆さんに使っていただけるような図書館を目指したいと考える。

委員：基本的には八尾市の図書館サービスは、他の自治体と比較しても、より良いサービスが提供されているという印象を持っている。このまま引き続きより一層のサービスを向上させるようお願いできればと思う。

6 その他

委員：ボランティア団体と図書館長との話し合いについて、コロナ禍もそろそろ落ち着いてきているが、どうなっているか。

事務局：具体的な日程はまだ決まっていないが、今年度中のどこかのタイミングで顔合わせなどをして、関係性を築いていけたらと考えている。